

# 通学路の交通安全対策と学

## 力向上のための教育施策は

新政会 増田淳一郎

問 綾北小学校の通学路である、風車公園北側の横断歩道や一時停止線の表示が不鮮明だが、補修する予定はないか。また、東名高速道路側道に隣接する地域の通学路は、安全確保のため遠回りとなっている。近隣の宅地造成により整備された道路を使用すると、通学時間が短縮され安全

も確保できるが、通学路として指定しないか。わが国は人口減少時代を迎え、生産人口の減少に伴う国力の低下が予想される。次代を担う子どもたちに期待するところだが、いかなる職種でも平均的な学力は必要である。全国平均レベルに近づけるための学力向上対策をどう考えているか。

答 横断歩道や停止線などの道路規制標示は、県公安委をどう考えているのか。また、下水道施設の老朽化や耐震化対策などはインフラ整備の中でも大きな割合を占めていると思うが、年度ごとの歳出の見込みは長期的に見てどのような傾向となるか。

問 東日本大震災では、被災した障がい者が支援を必要としていることを周囲にうまく伝えられず、避難所でつらい思いをしたと聞いている。外見からは障がいのあることが分かりにくい聴覚や知的障がい者などが、自己の障がいへの理解や手助けを求めるツールとしてヘルプカードがあ

る。カードは日常生活や災害時にも役立つ事例もあるため、本市でも導入しないか。また、ビブスを障がい者などが着用することで、災害時の混乱の中でも一目でどのような支援が必要か周囲の方が分かるようになる。避難所の備蓄品として配置してはどうか。

問 東日本大震災では、被災した障がい者が支援を必要としていることを周囲にうまく伝えられず、避難所でつらい思いをしたと聞いている。外見からは障がいのあることが分かりにくい聴覚や知的障がい者などが、自己の障がいへの理解や手助けを求めるツールとしてヘルプカードがあ

る。カードは日常生活や災害時にも役立つ事例もあるため、本市でも導入しないか。また、ビブスを障がい者などが着用することで、災害時の混乱の中でも一目でどのような支援が必要か周囲の方が分かるようになる。避難所の備蓄品として配置してはどうか。

# 更新時期を迎えた 公共施設は適正な 配置をすべきでは

武藤 俊宏

問 現在、市内の公共施設は次世代へ向けて更新時期を迎えようとしている。ライフスタイルや社会保障制度の変化、将来の人口減少社会を考えると、施設の複合や統合、多目的化などダウンサイジングを必要があると思

う。公共施設の適正な配置計画は、組織的に検討を進めていると思うが、今後のスケジュールや更新計画に係る費用

も確保できるが、通学路として指定しないか。わが国は人口減少時代を迎え、生産人口の減少に伴う国力の低下が予想される。次代を担う子どもたちに期待するところだが、いかなる職種でも平均的な学力は必要である。全国平均レベルに近づけるための学力向上対策をどう考えているか。

問 東日本大震災では、被災した障がい者が支援を必要としていることを周囲にうまく伝えられず、避難所でつらい思いをしたと聞いている。外見からは障がいのあることが分かりにくい聴覚や知的障がい者などが、自己の障がいへの理解や手助けを求めるツールとしてヘルプカードがあ

る。カードは日常生活や災害時にも役立つ事例もあるため、本市でも導入しないか。また、ビブスを障がい者などが着用することで、災害時の混乱の中でも一目でどのような支援が必要か周囲の方が分かるようになる。避難所の備蓄品として配置してはどうか。

問 東日本大震災では、被災した障がい者が支援を必要としていることを周囲にうまく伝えられず、避難所でつらい思いをしたと聞いている。外見からは障がいのあることが分かりにくい聴覚や知的障がい者などが、自己の障がいへの理解や手助けを求めるツールとしてヘルプカードがあ

る。カードは日常生活や災害時にも役立つ事例もあるため、本市でも導入しないか。また、ビブスを障がい者などが着用することで、災害時の混乱の中でも一目でどのような支援が必要か周囲の方が分かるようになる。避難所の備蓄品として配置してはどうか。

# 市職員が子育てや 介護を両立できる 職場の環境整備を

公明党 出口けい子

問 少子高齢化が進み、労働力人口が減少する中、本市では、今後数年にわたり大量の定年退職が続く。定数削減だけでなく、高齢者を家族だけで介護しなければならぬ職員も増えていくと思う。今後、質の高い行政サービス

を継続するためには、職員が子育てや介護などに直面しても、職場で能力が発揮でき、育

問 東日本大震災では、被災した障がい者が支援を必要としていることを周囲にうまく伝えられず、避難所でつらい思いをしたと聞いている。外見からは障がいのあることが分かりにくい聴覚や知的障がい者などが、自己の障がいへの理解や手助けを求めるツールとしてヘルプカードがあ

る。カードは日常生活や災害時にも役立つ事例もあるため、本市でも導入しないか。また、ビブスを障がい者などが着用することで、災害時の混乱の中でも一目でどのような支援が必要か周囲の方が分かるようになる。避難所の備蓄品として配置してはどうか。

問 東日本大震災では、被災した障がい者が支援を必要としていることを周囲にうまく伝えられず、避難所でつらい思いをしたと聞いている。外見からは障がいのあることが分かりにくい聴覚や知的障がい者などが、自己の障がいへの理解や手助けを求めるツールとしてヘルプカードがあ

# インターチェンジ 設置を最大限生か した施策の展開を

かわせみ 比留川政彦

問 (仮称)綾瀬スマートインターチェンジの設置が確実になり、本市の発展を期待する声を多く聞く。このポテンシャルを最大限活用し、まちづくりを進めていかなければならないが、寺尾上土棚線沿道の土地利用計画はどう

か。深谷落合地区は、意向調査の結果から準備組合の設立が困難となり、一時凍結した。第6回線引き見直しでは、特

定保留区域に指定されていたが、次回の見直しに向けた状況は。また、インター開通後は、交通量増加や渋滞が見込まれる。市街地への通過交通流入を危惧するが、流入防止対策をどう考えているか。

答 IHIの跡地は、パークアンドバスライドなど、市の玄関口となるような施設整備に向け調整中だが、具体的には決まっていない。農振農用地である春日原は、都市的土地利用に移行する整備手法を検討し、今後、国や県と協議を行いたい。深谷落合地区は、第7回線引き見直しに向け、対象区域や権利者特定しない一般保留区域の指定に向け県と調整している。また、寺尾釜田地区では、平成25年3月に交通対策整備計画を策定した。11月には、速度規制を行うゾーン30の区域指定を受けたことから、路面標示や交通対策工事を実施する。(ほかに「子供と高齢者の交通安全対策について」を質問)

### 議会の動き

- 8月
  - 20日 議会全員協議会・議会改革検討協議会
  - 25日 議会運営委員会
- 9月
  - 1日 9月定例会本会議(初日)・議会運営委員会・議会全員協議会
  - 2日 9月定例会本会議(第2日)・議会全員協議会
  - 4日 市民福祉常任委員会
  - 5日 経済建設常任委員会
  - 8日 総務教育常任委員会
  - 16日 基地対策特別委員会
  - 18日 9月定例会本会議(第3日)
  - 19日 9月定例会本会議(第4日)・議会運営委員会
  - 22日 議会改革検討協議会
  - 25日 9月定例会本会議(最終日)・議会運営委員会・議会全員協議会・議会改革検討協議会
- 10月
  - 1日 京都府城陽市議会議員 来市(綾瀬スマートインターチェンジ)
  - 10日 山口県防府市議会議員 来市(複線型人事制度)
  - 15日 総務教育常任委員会行政視察(大阪府和泉市・岸和田市)
  - 20日 議会全員協議会
  - 21日 経済建設常任委員会行政視察(愛知県豊田市・瀬戸市)
  - 23日 市民福祉常任委員会行政視察(滋賀県湖南市・草津市)
  - 31日 議会報編集委員会
  - 11月
    - 6日 議会運営委員会
    - 行政視察(大分県大分市)